

ギャラリー仲摩通信

二〇二一年三、四月合併号



桜満開の三月二十七日は、ガラス芸術の巨匠、チェコのS・リベンスキー教授生誕百年記念日です。リベ



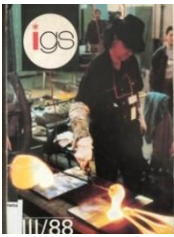
2000年12月

ンスキー教授は、ブリフトヴァー夫人と共に、生涯をガラス芸術に捧げられました。また、優れた教育者として、プラハ美術工芸大学で四半世紀に渡り教鞭をとりました。今日活躍するチェコのガラス造形作家の多くは、リベンスキー教授の教え子と言ってもいいほどです。

今号では、ご夫妻の偉業に加え、日頃、紹介されることがなかったエピソードを交えてリベンスキー教授に纏わる思い出を辿る旅に出たいと思います。

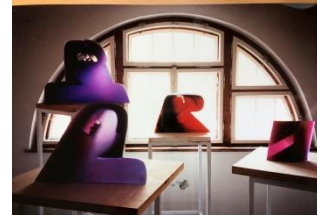
◆リベンスキー夫妻アトリエに初訪問

一九八八年秋、ガラスの街、ノヴィー・ボルジ、IGS. 第三回国際ガラスシンポジウムが開催されました。世界中の作家に会える好機、私も見学者として参加しました。ダナさん、ピーター・チルカ氏(国営アート貿易会社「アート



セントラム」マネジャー)と開催地向かう途中、ジェレズニー・ブロードのリベンスキーご夫妻のお宅に伺いました。お住まいから近くのアトリエには、半

円形の木枠で形取られたガラス窓の前にパリの個展の為に制作した二十余点が並んでいました。赤、青、紫等のガラス彫刻が自然光に映し出された様子は圧巻で、神秘的で美しく、力強く、厳かな表情で佇んでいました。身体中が感動で一杯になり、背筋がゾクゾクし、思わず「展覧会をしてください。」と口走ってしまいました。



「ウィ、マダム」の返事に承諾してくれたと思ひ込み、それから何年たつてもその時がやって来ないのに業を煮やし、チルカ氏に問えば、シンポジウムの後は個展要請ギャラリー数が数十にも及ぶと教えてくれました。それから何度、リベンスキーご夫妻に個展開催のお願いをしたことでしょうか。いつも教授は笑顔で「良い場所が見つかったらね。」と応えるのでした。「歴史的、もしくは美しい現代建築の300㎡以上の空間」が課題でした。

◆ナショナルギャラリーの回顧展

一九八九年、プラハのナショナルギャラリーで「スタニスラフ・リベンスキー、ヤロスラヴァ・ブリフトヴァー」展が開催されました。回顧展と聞いて、期待に胸を膨らませ、飛んでゆきました。一九四五年から一九八九年までのリベンスキー夫妻の作品展示と建築物の空間の為に制作した仕事を紹介した回顧展は、カルチャーショック以外の何物でもありませんでした。

「そして彼らは生きていく間からすでに伝説的存在になったのだ。」図録解説にロシルヴァ・ペトロヴァー氏が引用されたデイル・チフリー氏の言葉です。

◆リベンスキー夫妻作品を巡る旅

ピーター・チルカ氏の案内で、チェコ国内各所のリベンスキー夫妻の作品を見て回りました。全館巨大なガラスプロックで覆われたプラハの新国民劇場、聖ビート大聖堂、プラハ駅、旧プラハ市庁舎(写真下、高さ八・二メートル、幅七・三メートル)地下鉄駅、テレビ塔、ホテル等々。どの作品も、建築物と一体となり、空間を芸術作品に変えてしまう魔法にかかったようでした。



日本でのリベンスキー夫妻の活動

◆怒涛の一九九一年

一九九一年七月から、北海道立近代美術館を皮切りに『世界現代ガラス展』が開催され、リベンスキーご夫妻は、特別招待部門に十数作品を出品されました。展覧会は、翌年三月迄、下関市立美術館、大丸ミュージアム・東京、広島市現代美術館、岐阜県美術館、大丸ミュージアム・梅田に巡回しました。

十月二十六日から十一月二十四日迄、横浜美術館アートギャラリーにて『コンテンポラリーグラス チェコスロバキア6人の巨匠』展が開催されました。

出品作家/S・リベンスキー & J・ブリフトヴァー、M・カレル、D・ザメチニコヴァー、V・コペツキー、V・ツイグレル(敬称略)、企画/ギャラリー仲摩会期に合わせ、リベンスキー夫妻、キュレーターシルヴァ・ペトロヴァーさん、ピーター・チルカ氏が来日されました。時を同じくして開催されていた『世界現代ガラス展』大丸ミュージアム・東京にご夫妻を案内した際の事です。



リベンスキー夫妻の作品前に差し掛かると、教授からリクエストがありました。

「脚立を用意してほしい。」と。脚立が用意されると、教授は、脚立に登り、照明器具の向きを調整し始めました。何かと周囲に人が集まり様子を覗いていた次の瞬間、場内から歓声が上がりました。背面から光を受けた彫刻が突然、色鮮やかに浮かび上がったのです！

◆数々の講演会に感謝&ごだけの話
展覧会準備から、美術館、チェコスロバキア大使館、清水建設、サロン・アール・パンプレイス、ギャラリー仲摩での講演とパーティー、横浜高島屋藤田喬平展訪問、小旅行と日本滞在中は、盛沢山のスケジュールでした。(ごめんなさい！)

箱根の温泉旅館に泊まった晩の出来事を、こっそりピーターが教えてくれました。夕食の豪華な料理が並ぶと、リベンスキー教授



ピーター、リベンスキー教授

はピーターの側に寄り、「食卓がアートのように美しいけど、僕はマスタードを添えたグルルソーセージとパンがいいな。」と呟かれたそうです。

◆アクトシティ浜松に作品設置

一九九四年四月、浜松駅前に大型複合施設、アクトシティがオープンしました。大ホールエントランスロビー(地下一階)

階段左右に、リベンスキー夫妻による音楽、交流、調和をテーマにした「HARMONY I、III」と題した一對のガラス彫刻が設置されました。高さ



Photo© 神谷典夫

二・八メートルの作品は、天気の良い日は、午後早めの時間に、自然光を受けたガラス部分がプリズムのように、床に美しい虹色の影を作ります。(都市設計／鈴木崇英氏・UG都市設計(株)、建築設計／森一朗氏・(株)日本設計&松永文夫氏)

◆紀尾井ホールに作品設置

一九九五年四月、千代田区に紀尾井ホールがオープンし、正面玄関壁面に、リベンスキー夫妻の「ENCOUNTER」出会い」と題された作品が設置されました。



東洋と西洋の文化の出会いを表した横幅約七メートル、重さ約二トンの大作です。(建築設計／新日鐵・山下設計共同

企業体・藤井謙一氏、山下稔氏)

演奏会にお出掛けの際は、ぜひ作品にご注目ください。(右上写真／©鈴木豊)

◆日本初個展を明治神宮東廻廊で開催
日本をこよなく愛したリベンスキー教授からの課題「『歴史的な空間』」

不遜にも明治神宮で開催出来ることを願って友人、知人の伝手を頼りに行動を開始しました。前代未聞の身の程知らずの考えは留まるところを知らず、いろいろな課題の中、皆様の惜しみないご協力と明治神宮の芸術への深いご理解により、二〇〇二年五月末に開催許可を頂き、七月七日に会期初日を迎えることが出来ました。感謝！

明治天皇御生誕一五〇年 明治天皇九〇年祭記念
日本チェコ文化交流「聖なる森と光のコラボレーション」
スタニスラフ・リベンスキー
ヤロスラヴァ・プリフトヴァーガラス彫刻展
2002.7.7~7.21 明治神宮東廻廊

監督・講演／シルヴァ・ペトロヴァー、池田まゆみ 展示構成／隈研吾(敬称略)
展示にチェコから作品制作に携わる職人さんが駆けつけてくれました。最後の展示作品「法衣」が



Photo © 俣野広司

箱から出た時、まるでリベンスキー教授が現れたようで、思わず涙が零れました。梅雨時の会期中は台風、豪雨、地震、

西日と朝から晩まで様々な天候のオンパレード。作品は悪天候にめげず、様々な美しい表情を見せてくれました。

◆NO大阪万博

リベンスキー夫妻と日本との関わりは、一九七〇年の大阪万博まで遡ります。夫妻は、チェコスロバキア政府館に「生命の川」と題した高さ四・二メートル、幅二二メートルにも及ぶ大作を制作されました。プリフトヴァー夫人に、作品の所在を調べて欲しいと依頼され、夫人ご存命中に探し当てる事が出来ました。作品は三分割され、現在、大阪万博記念公園、大阪芸術大学、私企業が所蔵されています。コロナが落ち着いたら大阪に行つて観たいと思います。(仲摩)

編集後記

リベンスキー夫妻の偉業、想い出が、沢山あり過ぎて紙面が足りませんでした。幸運にもご夫妻と直に接し、仕事をさせて頂いた貴重な経験をこれからも伝承してゆきたいと思えます。(仲摩)

《編集・発行》ギャラリー仲摩

横浜市緑区三保町二〇六〇番地

TEL:090-1053-6642 FAX:045-507-3080

<http://www.nakama.co.jp>

nakama@nakama.co.jp